

感染症サーベイランスの果たす役割

谷口 清州

国立感染症研究所 感染症情報センター

ボーダーレスと言われる昨今、途上国においては、熱帯雨林の破壊と都市化が依然行われており、これまで自然界に隠れていた新種の病原体が新たに人間界に出現する危険性は増加し、交通と流通のGlobal化により、一つの国での感染症の流行が、即座に世界中の脅威となりうる時代となっている。これに対応するためには、健康危機あるいはその発生する可能性を迅速に探知し、効率よく共有し、そして即座に対応する、グローバルレベルでのサーベイランスと対応体制が必要となっているのである。

サーベイランスを考えるにあたって重要なことは、その目的を明確にするということである。感染症危機管理における一義的なものは、アウトブレイク或いは流行を迅速に探知するということであるが、事前にその発生の可能性を予測するというのであれば、病原体の変化を監視する、あるいは一定のリスクがある集団における健康状況を監視する、あるいは疾病の分布を監視する、また、動物における疾病や病原体の監視を行うことなども含まれてくる。つまり、疾患のアウトブレイクを早期に探知することが主な役割になるが、インフルエンザのパンデミックやSARS等のように非常に重要な意味を持つ疾患の流行を予測しようとするれば、その対象とする疾病によって、明確な戦略をたてて、サーベイランスを計画することが必要になってくる。また、特に新たに発見された疾患においては、サーベイランスはその疾患の臨床的特徴、リスク因子、死亡率、起因病原体、実施された対策の効果など、危機管理に重要な役割を果たすことになる。すなわち、サーベイランスはそのアウトブレイクの事前対応、発生後の探知、そして進行中の対策において、それぞれ違った目的と役割が、それに応じて計画されなければならないのである。

国内対策として考えることは、このような潜在的な脅威があるということを認識して、事前に準備しておくことが肝要である。特に稀な疾患が本邦において発生すれば、これを診断・探知するのは非常に難しいため、症候群サーベイランスのような方法で、重症でかつ原因が不明な疾患を拾い上げるとともに、アウトブレイクサーベイランスを整備して、異常な疾患の集積（クラスタ）を積極的に探知し、それを積極的に調査していく必要があると考える。これには、一般的な輸入感染症に対する知識の普及が必要であるが、不明疾患や稀な疾患の診断と治療を支援するための感染症専門家のネットワークのような支援体制の構築も望まれる。

The role of surveillance in combating global infectious disease threats

KIYOSU TANIGUCHI

Infectious Disease Surveillance Center, National Institute of Infectious Diseases,
Tokyo, Japan